

グループホーム さくらの家

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		時代の流れや机上の理論に流されない利用者各個人の自然な老後を中心とした日々の維持に努めていきたい
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		月の状況により、回数の減少する月もあるが、今後は方法等を考え、中止を減らしていきたい
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		今後も、自然な流れの中で、なじみの場所を増やしていきたい
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		当たり前のことは当たり前に行っているだけだが、「家」であるべきグループホームは、「祭り」などはしないのが普通...年々法改正により「家」から「施設」への流れとなってきている事が残念で不安要素でもあるが、今後も出来る限り利用者の為のホームであり続ける努力をしていきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		対策を考え、より参加回数が増えるように努めていきたい。但し生活している利用者の状況環境維持を最優先とする。

グループホーム さくらの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	入居相談や見学者はもとより、通りかかりの人、又は地域の交番などにも、社会資源としての幅広い有効利用法を提案し、高齢者や介護に関する相談窓口として位置づけする説明を行っている。		認知症キャラバンメイトの活動を有効かつ本格的に行っていききたい。(方法や段取りetcを模索中)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	1、第三者の客観的な見直しという意味の他に、ホーム(利用者生活の現場)と制度や法律との対面(確認)の機会とも捉え、日々の業務に可能な限り生かしている。		改めて、法律やグループホームのあり方について考える機会となり、ありがたく思う
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	一同に会しての運営推進会議の開催は中々出来ず。		自然な流れの中での発生を目指す、中々良い形は、中々見えてこず、試行錯誤中。 来年こそは綺麗にまとめたいと考えている。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	極力交流の機会を持ちたいと思っているが、頻回には難しいのが現状。		利用者の環境維持と外回りを完璧に両立することは、現在難しく、改善対策を考える必要性は感じている
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	入居予定者や見学者のみに関わらず、接点の持てる限りの介護者(家族)へ、その家族の立場に立ち、相談や助言提言等を行っている		当たり前のことなので今後も続けていきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に自分と置き換えて考え行動するように教育やチェックを管理者が行っている。 その他実習生や見学者やボランティア等を生活が壊れない程度に入れ、客観的に確認できるようにしている。		

グループホーム さくらの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>家族に対しても、立場を自分自身に置き換え考えて説明しているため、問題ないと思われる。(自分の親を預ける気持ち)</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族や利用者との信頼関係の構築と維持を全スタッフが、心掛けるようにもしているし、管理者やスタッフが自然な形で家族とのコミュニケーションをとる機会を多く持つようにも心掛けている。</p>		<p>利用者は勿論、家族に対してもその背景にある、葛藤や背徳心等ストレスの軽減等もスタッフの職務だとしている</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月請求書や利用明細と共に「さくらだより」を発行している</p>		<p>その他に、家族来苑時等にスタッフとの会話の機会と話し易い関係作りを日頃から心掛けている。(家族とも家族のように)</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>基本を「スタッフ・利用者・家族は皆家族」とし、話し易く何でもいえる関係作りと維持に努め、外部相談窓口も掲示している</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>上記の通り、月に3回の会議やミーティングを開催し、その他にもスタッフとの交流会話の機会や話し易い雰囲気作りを心掛けている</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の変化に応じ出来る限り迅速に勤務等の変更や、環境改善に取り組んでいる。</p>		<p>更に良い環境や方法はないか？を常に考えている。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>勿論、常識の範疇と捉え、出来る限りの配慮を行っている。</p>		<p>スタッフにもっと生活的なゆとりが持てる環境を作るための企業努力として、出来る限りの事は行っていく。</p>

グループホーム さくらの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	<p>企業内で出来る限りの配慮やバックアップ、提案は行っている。縁を尊びスタッフに対しても利用者に対しても同じ考え方で、最善を尽くす努力を行っている。(人間性を含む能力中心とした評価基準なので60歳以上のスタッフは4名在籍中)</p>		<p>企業だけでは限界もあるが、今後も可能な限り努力を続けていく</p>
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>新入社に対する教育以外にも、実習やボランティアに対する教育やミーティングでの確認や教育を行っている</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>ここで生活する利用者の為、ここに集まった介護職の為、縁を大事に有効にする為に教育・研修・ミーティング等を行っている。</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会・研修・説明会等で知り合った人達との交流や連絡を維持し、双方にとって有効に活用している</p>		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>一般常識の範疇でのストレスは極力生じない様に心掛けている。その他個人の主観的ストレスに対しても、日頃の考え方や捉え方などベース的な部分での軽減策やケアは、常に心掛けて講じている。</p>		

グループホーム さくらの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	事業所の規模に比べ、何処よりも多くのスタッフへの支援を行っていると思う。(スタッフのスキルアップや将来を視野に入れた援助等)		これからも出来る限りのスタッフの将来の為の向上心への援助や機会を作る努力を続けていく。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族による入居相談の次には本人と直接お会いし、本人にとっての最善の環境であるかを判断するための材料集めをして、体験利用等の確認をしてから入居を決定する。(聞かないと解らないので当たり前)		全ての始まりは、人間関係を作ることから始まる。
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族に対しては家族の立場での気持ちを察するためには必要不可欠なので、何度もおこなう		全ての始まりは、人間関係を作ることから始まる。
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の相談のみならず、入居後も利用者にとって最善の環境の提案を行うものと考えているし、満所の状態でも、相談者に対しての支援や相談受付・事業所の紹介等を行っている。(福祉事業者の使命)		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	まずは、管理者との人間関係を作り、次に体験利用をして、その後に入居の決定を行っている。空室が続くのは辛いですが、物ではなく人の移住なので、ゆっくり慎重に段階を踏んで行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家族のように共生するのがグループホームの形と考えているので、変な見る側見られる側等の上下左右の垣根のない、自然な空間作りに努めている。スタッフと本人と家族との共生...法律の許す限り、皆が大家族の様にあり続けたい。		

グループホーム さくらの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	上記と同様の内容		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	過去に、入居をスタッフをキッカケに家族の仲が良くなったという関わりの成功したケースもあり。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	普段から寄り易い実家の引越し先というイメージや環境作りを行っている		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	高齢者の背景にある死別等の人間関係の減少という状況を踏まえ、縁という言葉や、過去の趣味や土地の共通点等をフルに使い新しい人間関係の構築に努めている。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約に至らなかったケースも含め、永続的な関係の維持を自然に行える環境や、家庭に戻られても支援できるように訪問介護事業や介護タクシー等の部門を数年前から開設している。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	瞬間毎の気持ちの変化に出来る限り対応するように努めている		但し、何もかもが自由ではなく「社会」の中での人間としての尊厳を守るように日々のケアを行っている

グループホーム さくらの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居 = 全ての始まりではなく、今までの生活や習慣の延長線上の引越しにすぎない。(但し1人を優先する事は困難で、互いの折り合いを支援する事もケアの一部と考えて実行している)		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	その為に、スタッフ自身の固定概念の減少と客観的思考のレベルアップに向けた提言や研修をミーティング内にて実施・確認をおこなっている		今後も出来る限り、利用者個人個人が、自分らしく生きる日々を目指し支援していく
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族・スタッフ・ドクター等の情報交換や調整を日々心掛けた上でやっている		スタッフは、ドクターや家族に出来る限り利用者の状況を伝えるように心掛けている
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	その都度、急を要する場合は、早急に方針と仮の計画を立て、実施している(変化 = 計画では足りず、試して後に計画とする流れが主)		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録に関しては、色んな方法を試行し、更なる改善を目指している途中の段階(記録の書き方・書式・方法等について検討中)		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本事業所以外も含めた、柔軟な支援と提案を心掛けている。		法律の枠では家族や利用者の希望を実現するには狭く、その範囲内での支援でしかないのが、もどかしさを感じる場合がある。

グループホーム さくらの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	中学校の体験学習を極力受け入れ、地域サークルのボランティアも含め、多くの人に、来苑の機会を作るようにしている。		過去の実績では、演奏・演芸や庭の手入れ等のボランティアが特に多く来苑してくれている。
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	空室ある場合でも、本人にとって一番望ましいと考える場合には、他所のサービスを提案し、入居後も、状況の変化に応じ、最善の環境への移住移行を検討し、提案する。		例えば、夫婦の片方の退院等による状況の変化に応じて、提案検討を行う方向で考えている
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	未使用無協力ではないが、制度的に利用しがたい状況が多い		例えば、制度(地域の再区分による場所の変化)や、互いの仕事のリズムの違い等によるもの等に折り合いをつけるのが難しい
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には医者は信頼関係を最重要と考えているので、其々の主治医との協力提案連携や良い関係の維持は必須		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	以前からの縁を有効かつ大事にし、必要に応じ連携協力を得られるように維持している。(家族に勧められるドクターあり)		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	出来る限りの健康管理や変化の気付き等に努めている		

グループホーム さくらの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	主治医や入院先の担当ドクターとの情報交換の重要性は踏まえている。		
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	高齢者はすでにターミナルと同じ様に捉える部分も必要なのでスタッフにも家族にも普段から、将来の変化の可能性を含め話している		
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	その状態毎の本人の最善の環境を検討提案していくようにしている		
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	人の移住に必要な調整は、丁寧に行うべきと考え実行している		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	利用者間での問題等も含め、認知症である前に人として接し、最後まで社会的環境で個人のプライバシーや尊厳の維持に努めている。		実習生やボランティアに対しても、プライバシーの保護を踏まえた対応を行ってもらうように、最初に注意事項や説明を行う

グループホーム さくらの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	他の人の迷惑にならないように心がけ、出来る限りの自己決定や自己実現の出来る環境作りをおこなっている。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それが本来のグループホームの形だと思し実行している。働く側にとっては大変な事のようなが、自分の将来の理想の自由な環境実現を心掛けてケアをおこなってもらっている。		状況に合わせて動くスタッフの教育を以前からしてきたが、スタッフにも生活歴などからくる個性があり、100%とは言えない瞬間も存在する。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	知人の理容師に来てもらい、自然で納得のいく髪型にする為に、専門業者から切り替えて評判が良い。利用者によっては、行きつけの床屋に行かれる方もあり自由に選んでもらう		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	普段の食事メニューはその都度、利用者を含めた皆と決める。料理も強制なく、やりたいときに手伝っていただくのが、自然に実施できている。配膳下膳も含むが、出来る限り自力で、自然に実施する		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	出来る限り状況を見て対応をするよう心掛けている		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	自然なトイレへの案内や、最小限の介助の見極め、プライバシーを考えた声掛けを基本にケアを行うようにしている		何がどうするのが一番幸せなのかは、個人差があり、その見極めも検討も難しいが、その都度行ってケアをしている。

グループホーム さくらの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者全体での希望の調整を含め、その都度対応している		本人の気持ちと、衛生面等のギャップが出来た時の線引きをいつも悩む。(将来的にも続きそうな問題)
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	他者に迷惑のかからない範囲内でその人の流れに添ったケアを行っている		個人の生活リズムに添ったケア
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	過去の個人の趣味の他にも、リビングの目に付き易い場所に本や楽器を並べておくなどをして、新しい趣味興味へのきっかけ作りを心掛けている。		実際に新しい趣味(キーボード)を始められた利用者も居られる
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金が手元にあると不安な人も安心する人も其々あり、その状況にて対応している。		外出行事(年に4回前後)や日頃の買い物ドライブの時などに個人使用あり。こまめに使うような機会は無いので、個人管理のしていない人が多い。(金庫又は家族管理など)
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望には出来る限り対応するように努め、希望なくても誘い出かける段取りをし機械を増やす努力はしている。		基本的に年4回の外出行事以外は、当日の利用者との話の展開や、状況によって1日の流れが決まるので、利用者の気分や状況による変動あり
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	残りの人生を出来る限り楽しく過ごしていただく為に出来る限りの支援を行っている		過去に温泉日帰りやショッピングセンターや回転寿司(昔は無かった)や高級なレストランでの外食を年4回前後行っている

グループホーム さくらの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	基本自由に電話使用可能(実際使用されている利用者あり)		しかし、出来る利用者とは色々な理由により出来ない利用者との差が気になる(思うままに電話をかけられる人も居れば、全く掛けない人も居て、支援の面ではなく、総体的に観て、それでいいのかな?と思う時があり、検討を続けている)
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	前記のように、実家そのまま引っ越してきているだけの状況や捉え方の出来る家族との関係や環境の維持に努めている		利用者を介して家族の家族というスタッフと家族の関係の定着(義理の兄弟のような互いの位置関係が理想と思われ実施してきた)
(4)安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングや会議での確認は勿論、日頃のケアや言動についての注意確認を行っている		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	必要最小限の鍵しか使用していない		利用者の安全を守り、閉塞間の無い環境作りと維持に努めている
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	スタッフ一人ひとりが、空間把握能力の向上のために社内での研修と、スタッフ間のコミュニケーションを行うように努めている		スタッフも個人差があり、能力のバラつきも見られるが、今後も向上に向けた研修等を続けていく予定
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個人対応以外になく、一律なんて出来ない		利用者ごとに対応を状況の変化に応じて検討実施している
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	家具の配置や室内の物品も含めて利用者個人に応じた環境維持に努めている		個人の希望と安全面の線引きについての判断の見直しは、常に考えるように努めている。

グループホーム さくらの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的には行えていないが、確認の出来る資料の完備や、口頭による状況変化時の対応の確認を行っている		ミーティングや普段のケアの中での確認を今後は、定期的に行うべきかを含めて検討する。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近所との交流や、助け合いを普段から行っている。加えてスタッフもいつでも駆けつける環境を作っている。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居以降変化と将来の予測の可能性については、こまめに説明を行ってきている		何より家族との信頼関係が一番大事だと考えている
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	病院併設ではないので、早めの気付きと、対応を以前から重んじてきた。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	家族と本人の立場に立ち、ドクターへの相談を含めた検討を慎重に且つ積極的に検討等を行っている		利用者の状況は変化するので、判断材料となる情報の提供等をドクターらと随時おこなっている。
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	薬に頼らない家庭の範囲での便秘改善法として、野菜・水分・運動等は勿論、オリゴ糖などの使用も実施検討している。		個人に対する効き目の現れ方など、今後も更に検討継続予定

グループホーム さくらの家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	個人の状況に応じ、出来る限り自然で本人主導の口腔ケアでの口腔衛生維持を心掛けている		週一回の歯科往診等も用意しているが、個人差あり
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状況に応じ、摂取の記録やメモを増やし、確認するようにしている		食事や水分の摂取は大事だが、記録が増えるのも施設の管理の様で、悩む部分もある
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	季節前の再確認やミーティングでの勉強会と、ガイドライン等に添った当苑での対策の検討や周知を心掛けている		流行の確率が増す季節などその都度にも最新の国の指針や情報を元に、詳細を皆へ伝える
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板の使い分けや器具の使用・保存等についてのルール設定		食材も安全第一で判断するように努めている
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前の花壇や庭木の整備し、季節毎の自然を楽しんでもらえるように心掛けている(交流のキッカケでもある)		整備には、ボランティア等も活用し、内外共に交流の機会を増やす努力としている
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日本の自然な家庭の中の空間を心がけ環境維持に努めている		

グループホーム さくらの家

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の所々にベンチを設置しており、死角もあえて作り、自由な過ごし方や使い方が出来るように考慮している		其々の箇所の状態の維持を心掛けている(安全対策)
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	元々の家具は一つも無く、利用者は以前の家からの引越しと同じように家具等による雰囲気作りをしていただいている		自分自身の空間作りと維持
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	掃除や除菌による臭い防止は基本とし、アロマやお香も使用したり、加湿器や換気にも心掛けている		心の安定に努める
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	シッカリとした手摺りや、居室入口のカーペットの色分けや、滑りにくい廊下の板張り等、に加え、必要に応じ張り紙等にて其々の生活の為にフォローも行う		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者のゆったりとした生活リズムの為にスタッフと利用者の双方共が焦らずゆっくりと過ごせる環境や業務の再検討を常に続けている		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭の風景の維持(犬や花の管理)と勝手口の解放や、リビングからのスロープなど、出来る限りの環境作りと維持を行っている		管理にボランティアも多用し、交流の機会とするように子尾路がけている

グループホーム さくらの家

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	完璧ではないが努めている
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	普通の家庭の様な空間(GH)
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	出来る限りの支援は行っている
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	完全に拭い去る事は出来ない
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	GHという社会の中で出来る限り
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	それも使命で当然努めている
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホーム さくらの家

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度 最低週に一回は家族の来苑を約束	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている 接点が増え嬉しいが難しい	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き活きと働いている	ほぼ全ての職員が 過去の自信との葛藤もあるはず	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが につければエゴですよ	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 信頼関係は出来ている	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

自然で安らかな普通の日々、施設ではなく家の中の生活を出来る限り維持して、自分らしく...そして人としての尊厳の中での人生の終盤を大切に寄り添い共生という形でのグループホームであり続けたいと考えています。利用者本人には、少しでも後悔の少ない時間を過ごしてもらいたいと思う気持ちを大切に、入居者と家族とスタッフが、家族のように気持ち緩やかに自然な関係を維持していけたらとおもいます。入居者の家族へは、スタッフと入居者の家族が義理の兄弟のように接する人間関係を作る事が出来れば、入居者家族の中にあると思われる、「親を看るのは本来自分の役目...という日本人の中にある遺伝子から来る気持ち」により、例えどれだけ自分が苦勞して見つけた納得のグループホームであっても、日本人の心に生まれる「親を他人に預けることへの葛藤や背徳心に似た気持ち」を和らげることにつながると信じてこの方向でやってきました。どれもベースにあるのは、入居者にも、入居者の家族にも、自分を重ね合わせてより良い望む状況を考えて言う事です。ここは、開設者が、自分の親が住むグループホームという考えで生まれたグループホームですし、管理者は、大型入居施設で何人もの入居者を見送ってきました、その時のなんとも言えない不完全燃焼に似た後悔を味わってきた過去を元に、理想実現の為に続けてきました。まだまだ上もあるとは思いますが、何処よりも自然で家庭的なグループホームに向かっていく努力をこれからも続けていこうと思います。まずは、見て聞いていただければ、感じていただけるとおもいます。いつでもどうぞいつでも自然に時間が流れていますから。